

## 被災地で活動 働き方考える

### 仙台でシンポ

東日本大震災を契機に  
地域で必要とされる仕事  
について考える特別シン  
ポジウム「しごと図鑑」  
被災後の働き方をデザイン  
しよう」(明治大社会イ  
ノベーション・デザイン  
研究所主催)が、仙台市

震災を契機に地域で必要と  
される仕事を考えたシンポ  
ジウム



青葉区の河北新報社別館  
ホールであった。

震災後に被災地で活動  
した8人が「仕事を取り  
巻く環境」などをテーマ

に対談や報告をした。

「地域で必要な仕事を  
考える」と題した鼎談(て  
いだん)では、若者を巻  
き込んだ地域おこしを行  
うNPO法人サプライズ  
(静岡県伊豆市)の飯倉  
清太代表理事がごみ拾い  
から出発し、自治体のキ  
ャクター作りやボラン  
ティアーツーリズムなど新  
しい公共ビジネスに発展  
した経過を説明した。  
河北新報四郎丸販売所  
の鴛田真一所長は震災直  
後の生活情報を載せた折  
り込み紙を紹介。日本ス

ウェーデン福祉研究所  
(東京)の中込敏寛代表  
取締役は認知症患者の症  
状改善やがん患者の痛み  
緩和などに有効なタッチ  
ケア「タクティールケア」  
の普及活動を報告した。